

みんなで



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第1号 2020.4.7(火)

小学校生活

最後の一年の



始まりです

六年生への進級おめでとう！と、その前に、この間どのように過ごしていましたか？体調をくずしていませんか？家にいることを強いられて、たいくつだったことでしょうか。また、家の人が仕事でいないお家では、ずっと留守番をしていて心細かったかもしれません。今、新型コロナウイルスと闘っているたくさんのお医者さんがいます。感染した人を助けるために必死になって働いている医療関係者がいます。そういう人たちのことを考えると、病気にかからないようにするために家にいること、「自分の身を自分で守ること」が私たちにできることです。この病気はいつまで続くのかはわかりませんが、おさまるまで、少しがまんやしんぼうをしましょう。勉強は後からでもできますが、命は後から取りもどせません。この病気が終息するのをひたすら待ちましょう。さて、改めておめでとう！今日から、先生が六年四組の新しい担任です。と言っても、四年

生からの持ち上がりで、四年一組だった人、五年三組だった人は、またのおつきあいになります。新型コロナウイルスの影響で放送での担任発表となりましたが、先生の名前が呼ばれたとき、どんな思いだったでしょうか？おどろいた人、えーと思った人、やったと思ってくれればうれしいけど、いろいろな人がいることでしょう。

先生自身は、もう一年間みんなと過ごせるのを大変うれしく思っています。去年行った曾爾の野外活動とてもよかったですね。俱留尊山から見た曾爾の山々、キャンプファイヤーの夜、とても心に残っています。今年は修学旅行もあるので、とても楽しみにしています。

さて、六年生と言えどもさまざまな行事の中心に立ち、縁の下力持ちとして活動しなければなりません。時には、「こんなことまで自分たちがやらなければならぬの？」と思うこともあるかもしれません。でも、どうでしょう。同じやるのなら「イヤだ。めんどくさい。」と思いがたやるよりも、一つ一つのことを楽しみながらやってみませんか？「一見何の役にも立ちそうもないと思えることでも、「何かを学び取ろう」と言う気持ちでやってみませんか？そんなちっぽけな一つ一つの積み重ねが、きっとみんなの心の成長へとつながっていくことだと思います。この一年間を充実した毎日にししましょう。よろしくお願いします。

先生にとっても最後の年に

「とうとう最後の一年がやってきたか。」と言った感じです。一九八五年に先生になって三十六年目。定年後は先生をやることはないで、今年度が教師最後の年になります。来年の三月には、みんなといっしょに下田小学校を卒業していきます。ですから、今のみんなが最後に受け持つ子どもです。卒業の時には、よかったと思えるような一年間にしたいと思います。そのためにも、一日一日を無駄にせず、充実した一年を送りたいです。心に残る四組にして行きましょう。

先生の自己紹介



年齢

五十九歳（今年は六〇歳に）来年三月で定年

家族

四人家族 よめさん（銀行員）と父母

しゅみ・特技

・器械体操を高校・大学とやっていました。
・読書が好きです。

先生の生い立ち

・一九六〇年十一月十五日、大阪市東住吉区（今の平野区）に生まれる。2人兄弟の長

男。大阪市内の小学校、中学校を卒業。
・大学では保健体育を専攻。小学校と中、高の保健体育の免許を持っています。

性格

よくはわからないけど、
・人前に出るとあがる。
・人前でしゃべるのが苦手
・がんこと言われる。
・興味のあることには夢中になる。
・流行を追わない（追えない）
とか言われるけど、みんなはどのように思
うでしょうか。

教師の歴史

七条養護学校

3年間 25〜27歳

4年／5年／6年

三郷小学校

6年間 28〜33歳

5年／6年／5年／6年／5年／6年

高田小学校

2年間 34歳〜35歳

4年／4年

王寺北小学校

11年間 36歳〜46歳

3年／5年／6年／4年／6年／6年／6年

6年／少人数指導／6年／4年／3年

真美ヶ丘西小学校

1年間 5年 47歳

下田小学校

13年目 48歳〜60歳

初任者指導／5年／6年／4年／3年／4年／5年／6年／2年／4年／5年／6年

先生の教師としてのふり出しは、病弱の養護学校でした。体育教師として先生がスタートしました。三年で小学校に。教師36年目です。（養護学校3年、小学校33年）。これまでの受け持った学年は、2年（1）、3年（3）、4年（9）、5年（9）、6年（12）と、6年生が一番多く、反対に、一年生を持たないまま先生が終わってしまいます。

井阪満穂さん	磯田大雅くん	井上冬花さん
岩本菜々美さん	岩本響くん	上田隼平くん
大武優介くん	岡田紗侑さん	奥谷綾乃さん
川原ことみさん	喜沢優衣さん	木村優太くん
久保日香莉さん	倉谷光羽くん	酒井琳世くん
佐藤晃太郎くん	佐藤郁弥くん	澤田ひなたさん
渋谷桃香さん	下田瑠菜さん	菅野日和さん
高山大空くん	谷口剛琉くん	塚本祥真くん
土家璃子さん	戸川翔太くん	中岡樹くん
西野一翔くん	藤岡咲良さん	堀川太陽くん
三瀬詩月さん	安川颯泰くん	八田菜愛さん

よろしく 6年4組 33名



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」 第2号 2020.4.21(火)

二〇一九年度 —語り継がれることでしょう—

みんなが五年生だった二〇一九年度は、歴史に残る年になるのではないかと思います。みんなが大きくなった将来、子どもができてきたら、その子どもが使う教科書には、今起きていることがのり、学習しているかもしれません。きっとこの一年は長く語り継がれることだと思います。

思い返せば、年度の中で元号が平成から令和へと変わり、令和が始まった年でした。「十連休などはもうめったにないことだろう。」と、長い休みを楽しんで、うかれていたそのころ、今のようないことが起きるとは想像もつかなかったことでしょう。新型コロナウイルスの世界的な流行によって、卒業式が中止や縮小といった今までにない事態となりました。各学校は年度のしめくくりをむかえる前に休校となって混乱し、いろいろな行事やイベントが中止となってしまいました。

二〇二〇年度。新しい年度になっても、さらに感染者が増えて、とうとう緊急事態宣言まで出されるようになりました。感染者の数は止まらず、世界では毎日五千人をこえる人が亡くなっています。いつ、どこで感染するかもしれないそんな恐怖と日々向き合っているのです。

二〇二〇年度になって、新しい学年になったのですが、新しいクラスでみんなが一緒に集まれる日は、まだ先のようです。家で大変ないくつだと思いますが、希望を失わず、こんな時だからこそできることを考えてほしいです。必要のない外出をひかえることはもちろんですが、こういうときだからこそ計画的に生活のリズムを作ることが大切でしょう。この状況が終息したら、新しい年度、新しい学級の始まりです。やりたいこと、六年生だからやれることをいろいろ考えておいてください。それが、希望につながります。早い終息を願いましょう。

「先生が小さかったころ」

—連載を再び始めます—

四年の時に受け持った一組でも、昨年受け持った五年三組でも学級文集「みんな」を発行していました。そこでは「先生が小さかったころ」という連載をのせていました。これは、先生が子どもころの一九七〇年代の様子をいろんなテーマで書いたもので、四年で九十四回まで、五年では一四六回まで連載をしてきました。

小さいころの出来事を思い出して書くのですが、遠い昔のことはなかなか思い出せないものです。しかし、先生には小学生の三年と四年の時に書いた六冊の日記帳が今でも残っています。（当時のノートは一冊三〇円でした。）これは、先生の親が捨てずに残してくれ日記帳です。それを読み返すと、忘れかけていた思い出がはつきりよみがえってくることがあります。小さいころの場面を思い出した時は、とてもうれしい気持ちになります。思い出したら、その時の様子を書いて文書に残し、このシリーズとなりました。日記帳だけはずっと残しておいてほしいものです。これは、おうちの人へのお願いでもあります。

さて、先生は、まだまだ小さいころの思い出の話をみんなに伝えたいと思っています。それで、六年生でも一四七話から再開します。ただ、初めて読む人には、今までの連載に書いた内容がわからないので、これまでの話をテーマごとに分け、それを冊子にしたものを渡します。

1. 一九七〇年代
2. 牧野少年のこと・家族のこと
3. 学校の思い出
4. 団地の出来事
5. 子どもの遊び
6. 万国博覧会 — 一九七〇年万博 —
7. 田舎 — おじいさんとの思い出 —
8. 一九七〇年代の流行
9. 昔のモノ・コト
10. 先生が小さかったころ

出来た冊子は印刷状態が悪くて、また誤字脱字もいくつか見つけました。出来上がりが悪いのですが、時間のある時に読んでくれたらと思います。一九七〇年代の当時の生活の様子や牧野少年のことを知ってもらえたらうれしいです。

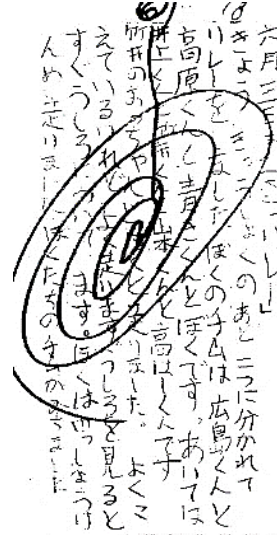


連載「先生が小さかったころ」(147)

「小学校の友達」

小学校の時に書いた日記帳を読み返していると、その時の友達のことを思い出されます。よく名前の出てくるのが、青木君、竹井君、楠本君、広島君。女の子では、学級委員をいっしょにやっていた片桐さんや高野さん。これらの友達の名前が日記に登場しています。

青木君はやんちゃな男の子で、ゾウがふんでもこわれない「アーム筆入れ」は本当にこわれないのか、地面に置いてふみつけていました。竹井君は、小学生なのに、みんなから「竹井のおっちゃん」とよばれていました。日焼けして真っ黒で、太っていたから「おっちゃん」と言われていたのだと思います。走るのがとても速くて、当時、運動会の種目にあった選抜リレーにも出て活やくしていました。広島君は、顔が馬のように長かったから、広島と呼ぶ所を「広し馬（うま）」と呼んでいました。女の子では、片桐さんの名前が何度も登場するので、きっと大好きだったのかもしれない。みんな六〇歳今どうしているのでしょうか？元氣かな？





教室の机がみんなを待っている

香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」 第3号 2020.5.7(木)

たのしいことを考えよう！

こんな時は、たのしいことを考えるにかぎります。

先生は、みんながそれぞれの机に座って、六年四組が始まる日を、とてもたのしみにしています。コロナが落ち着き、全員がそろった日には、やってみたいことがあります。

まず、運動場のはしからはしまで、思い切り走ってもらいたいです。大声を出して、体にたまったものをき出すのです。人をきずつける言葉や、ひびいた言葉以外は、大声でさけんでもかまいません。できるだけ大声を出して走り、この間のうつぶんを晴らしましょう。

次に、くす箱を開きましょう。先生は、今、くす箱を作っています。くす玉ならぬ、くす箱で作ったくす箱です(ややこしい)。みんながそろったら、ひもを引っ張って、くす箱を開くのです。先生のような古い教師は、若いころ、お祝い事があつたら、くす玉を作ったものです。一年生を迎える会や、運動会の開会式にくす玉をやることをよくしました。

くす玉ができたなら、長い竹の先にくくりつけて、運動会では、児童会代表が合図で、ひもを引っ張ります。それを待つ間はすぐくしんとしていて、くす玉に集中しているのです。カウントダウンの合図でくす玉がわれると、メッセ

ージとともに、紙吹雪や小さい風船、モールなどが出てきました。(もっと昔は、そこからハトが飛び出たと聞きます。)しかし、完璧に作れたと思っても、うまく開くことは、なかなかなくて、長い竹さおの先につけたくす玉が、そのまま地面に落ちることが度々ありました。中には、それを期待して見ていた人もあり、たのしい運動会の始まりとなったのでした。

子どもの喜ぶ様子を見たい！その一しゆんのために、いろんな工夫をこらして、先生たちは共同で、せっせとくす玉を作ったものです。直径一メートルもあるくす玉を作ったこともあります。昔もそれなりにいそがしかったけど、こんなことに一所懸命なれる先生が多かったな。最近ではこんな場面を見ることが全くなくなって残念なことです。

さて、教室の前の時間割の横あたりにくす箱を設置しました。ひもを引っばつたら、何が出てくるのかたのしみにしておいてください。こんなたのしいことを考えると、くす箱を作るのがおもしろいし、学級の始まりがとてもたのしみになってきます。



※これはくす玉、みんなはくす箱をひらく

一学期のグループを決めました

先生はグループ活動を大切にしてきました。勉強はもちろん、そうじも給食もグループで行います。そのグループは一学期間同じです。リーダーを選出して、そのリーダーを中心にグループ活動を行います。

いつもなら、次のような流れで先生はクラスを作っていきます。

四月 とりあえずはん
五月 一学期グループ決定
九月 二学期グループ決定
一月 三学期グループ決定

まず、学級のクラスのやり方に慣れてもらうために「とりあえずはん」を作ります。これは、出席番号順に作ったグループです。学級の全てのことをグループ単位で行います。

そして、ゴールデンウィークが開けたら、リーダーを選出し、立候補してくれたリーダーを中心にグループを決めて行きます。リーダー以外の人は、どのリーダーのグループに行きたいのかという希望を取って、それを元に先生が決めて行きます。（リーダーが集まって決めた行ったこともあります。）

ところが、今年は一学期の授業がまだ始まらないので、一学期は、「とりあえずはん」を一学期のグループにしたいと思っています。グループの中から、リーダーを選出してもらいます。グループは一学期間同じメンバーで、一学期間はかえません。グループ活動では、リーダーの役割が大事になってきます。たくさんの方がリーダーを経験してほしいと思います。席がえは、二週間ごとに行います。グループの位置がえです。給食とそうじも、グループでまわします。これは一週間交代です。まずは、いろんなやり方になってほしいと思います。始まってからの話ですが。

班	メンバー
1	井阪、大武、久保、渋谷、塚本
2	磯田、岡田、倉谷、下田、戸川
3	井上、奥谷、酒井、菅野、中岡、堀川
4	岩本な、川原、佐藤こ、高山、西野、八田
5	岩本ひ、喜沢、佐藤ふ、谷口、藤岡
6	上田、木村、澤田、土家、三瀬、安川

連載「先生が小さかったころ」(48) 「修学旅行」

みんなのおうちの方はどうだったのかは分かりませんが、昔は関西地方のほとんどの小学校は、伊勢方面に修学旅行に行きました。小学校のアルバムを見たら、夫婦岩の前で撮った写真や、鳥羽水族館でアシカのショーを見ている白黒写真が残っています。

「夫婦岩の日の出を見よう」と朝早く先生に起こされて、ねむい目をこすりながら、歩いて行ったのを思い出します。（夫婦岩の日の出というのがありがたいようです。先生は卒業制作に夫婦岩の彫刻を残したぐらいですから、それなりに感動したのだと思います。）おみやげは、大きな生姜板（しょうがいた）という生姜の味のする菓子を買いました。

今とは違って、全くと遊びの旅行だったけど、友達と風呂に入ったり、夜おそくまで話したりして、楽しい旅行でした。

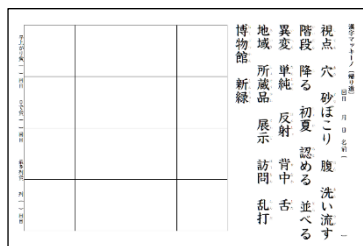
小学校のときは、修学旅行以外にも、二泊三日の林間学校というのが夏休みに入ったらすぐにありました。五年は高野山に、六年は比叡山（なんでお寺なのかわかりませんが。）に行きました。ですから、六年では二度の宿泊旅行を経験することになります。先生は大変だと思うけど、家族と離れての旅行も楽しかったです。

奈良県では、いつから広島に行くようになったのかは分かりませんが、大阪では、今でも伊勢に行く学校があるようです。

漢字マツキーノをやります

漢字を楽しく覚えるために考え出されたのが「マツキーノ」という漢字のビンゴゲームです。タテ・ヨコ・ナナメどこでもいいからそろったら「マツキーノ」とさげびます。これは、牧野英一という名古屋の理科の先生が、中学生に元素記号を覚えさせるために考えたもので、牧野だから「マツキーノ」というそうです。それを漢字用にしたのが「漢字マツキーノ」です。ぐうぜんにも先生は「牧野」だから、「マツキーノ」とよばれてもおかしくないのです。

漢字の宿題というと、先生が子どものは、百字帳というノートを使って、新出漢字を覚えさせられたものです。一つの漢字につき百回も書かないといけないので、書いているうちに手がいたくなってきました。中には、部首の木偏なら木を一行下までずっと書いて、それからつくりの部分を書いている人もいました。確かに、くり返して書いて覚えるというのも一つの方法だ



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第4号 2020.5.18(月)

と思いますが、これはおもしろみがなく、漢字は一番きらいな宿題でした。

こういうこともあって、先生は漢字マツキーノをやるようになりまし。もう二十年以上、漢字マツキーノをやってきたのですが、算数や日記の宿題はいやがられたとしても、マツキーノは楽しみにしてもらえる宿題です。やってくるとのを忘れたとしても、朝のほんのわずかな時間があつたらできます。

△漢字マツキーノのやり方▽

- ① 22の漢字の中から好きなものを選んで、16のマスをつめる。(このとき同じ漢字を選んではいけません。書くときは手本を見ながら、正確に書いていかに書く)
- ③ 先生が22枚のフラッシュカードをよくきつたうえで、1枚を選んでカードの表を見せ、次にうらの答を見せる。(本当はそうらしいけど、時間がかかるので、先生は適当に選んで言っています。)
- ④ 自分の書いたマツキーノ表に先生が選んだ漢字があつたらそのマスに印をつける。または、ぬりつぶす。
- ⑤ リーチになつたら立つ。
- ⑥ タテ・ヨコ・ナナメのどれでもいいから、一列がつながつたら、「マツキーノ」とさげび。
- ⑦ 先生が16個の漢字を言い終えるまで、続ける。最後にそれぞれの賞を選ぶ。

△マツキーノのいろんな賞▽

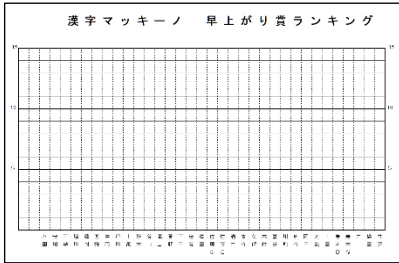
- ① 早あがり賞…クラスの中で一番早くあつた人
 - ② 最多列賞…クラスの中で、最も多くの列がつながつた人
 - ③ 究極(きゆうきよく)の最多列賞…16枚のカードの漢字とマス目に書きこんだ漢字が全部同じだった人
 - ④ 究極(きゆうきよく)の早あがり賞…4枚のカードであがつた人
 - ⑤ 0で賞…16枚のカードを開けても一列もつながらなかった人
 - ⑥ 期間皆無賞(きかんかいむしょう)…一学期間を通じて一度も名前の発表がなかった人
- ※ランキング表を教室の後ろにはっています。学期ごとに、それぞれの賞の表彰(ひょうしょう)があります。
- ※学期の終わりには、七×七列の巨大マツキーノをします。ポイントをかせげます。

先生は、このゲームを考えた牧野英一さんがえらいなと思います。早上がりできなくても、最多列や、0で賞をねらえる楽しみがあるというのがこのゲームのおもしろさです。二十二個のうちの十六個というのもポイントで、そ

れより多くても少なくてもいけないのです。

やり始めたころは、「こんなんでほんまに漢字を覚えられるのだろうか?」と先生は思っていたし、おうちの人からも「おちよくったよな宿題」と言われたこともありましたが、毎日やっていると思えないことに、漢字が覚えられないようになってくるのです。きつと、いやいや覚えさせられる漢字ではなくて、「マッキーノであがつてやろう」と楽しみながら書くので、そのやる気のために覚えてしまうこともあるのです。

マッキーノを毎日やっている、こんなおもしろい話も聞きます。例えば、子ども会のクリスマス会で、ビンゴゲームをやったとき、「ビンゴ」と言わずに、「マッキーノ」と言うてしまったそうです。ほかの人は「何を言ってるんだ?」という不思議な目で見られたなど、日記に書いて来た人がいました。これが、一人だけでなく、何人もそう言っていました。毎日やっていたら、くせになるのでしょうか。



△漢字の学習について▽

漢字は次のような流れで学習を進めていきます。

① 新出漢字

むずかしい漢字やまちがいやすい漢字などは、授業で教えることもあります。ふつうはほとんどを宿題で出します。(一回の宿題で二〜四コ)

② 漢字マッキーノ

一つの单元(まとまり)でマッキーノ(この間、マッキーノの漢字も同じです。)マッキーノの用紙は、前半がそのまま漢字を書き、後半は、書きとりの用紙になります。

③ 漢字テスト

何回か続けた後、最後にまとめの漢字テストをします。

④ 書き取りの練習

单元(たんげん…一つのまとまり)の漢字がすべて終わったら、こんどは、漢字ノートに書き取りの練習をします。(二十問の書き取りの練習です。)

連載「先生が小さかったころ」(149)

「光化学スモッグ」

これは、一九七〇年、NHK「みんなのうた」で流されていた「空がこんなに青いとは」という歌です。大阪の工場地帯の公害をテーマにした歌ですが、初めの「知らなかったよ、空がこんなに青いとは」と言うことは、それほど空が青くなく、工場から出るけむりで空がおおわれていたのです。

先生が小学生のころ、「光化学スモッグ注意報」が出ると、運動場に赤い旗が立てられて、教室に入らなくてはなりません。公害が社会問題となったのもこのころでした。空がけむりにおおわれ、海や川は工場の排水がたれ流され、それによって四大公害(水俣病、第二水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく)が起り、人々の生活がおびやかされたのです。

「空がこんなに青いとは」

知らなかったよ
空がこんなに青いとは
手をつないで歩いて行って
みんなであおいだ空
ほんとに青い空
空は教えてくれた
大きい心を持つように
友だちの手をはなさぬように

知らなかったよ
空がこんなに青いとは
なぜかしら悲しくなって
ひとりで見上げた空
とっても青い空
空は聞かせてくれた
風にも負けない雲の歌
ひとりでも もうなかないように



地球の出来事	3m を 45 億年とすると	右はしからの距離
①生命誕生	4000000000年前	2m60 cm
②恐竜がさかえる	150000000年前	10cm
③江戸時代	400何前	0.00027mm
④ヒトの誕生	7000000年前	4.6mm
⑤ピラミッドがつくられる	5000年前	0.003mm
⑥三葉虫がさかえる	500000000年前	30cm

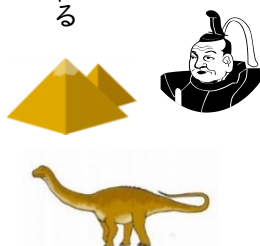
香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」 第5号 2020.5.21(木)

― 社会の授業から

人類の歴史は…5mm たらず!?

六年生の社会科の中心は、『歴史学習』です。その歴史のイメージを持ってもらうために、地球誕生から46億年を3mのテープに表してみました。46億年を約45億年と見なして、これを3mとすると、1mが約15億年にあたります。授業では、

- ① 生命の誕生
- ② 恐竜がさかえる
- ③ ヒトの誕生
- ④ 江戸時代
- ⑤ ピラミッドがつくられる
- ⑥ 三葉虫が栄える



などの歴史のできごとを、まず古い順にならべてもらいました。これは、ほぼ古い順にならべることができました。(①⑥②④⑤③)

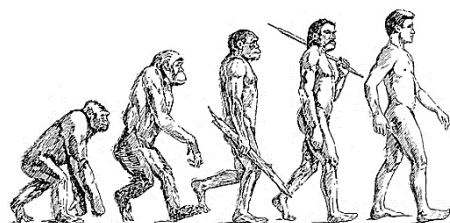
次にこれらの歴史上の出来事が、テープのどのあたりにくるのか予想してもらいました。

現在を0とすると、生命誕生の40億年前が2m60cm、三葉虫などが栄えた時期が33cm、恐竜の時代が10cm。そして、最初の人類が誕生してから約4億6000万年前は、なんと約4cm6mmに

かなりません。日本にヒトが移り住んだのは0・3m、江戸時代なんて0・00027mmとなります。

また、「地球カレンダー」というものがあります。これは、地球誕生からの46億年を一年としたら、地球上の出来事がいつになるのかをカレンダーで表しています。1月1日から始まって、12月26日午後8時17分ごろに、巨大いん石が地球に激突して恐竜が絶滅しました。類人猿から分かれた最初の猿人であるトウ・マイ猿人が現れるのが12月31日午前10時40分のことです。20世紀が始まりおわるのが同じ日の59分59秒です。人が一二〇歳まで生きたとしても1秒以下をしめるにすぎません。

いかに人の歴史が短いかわかるでしょう。でも、ここにはたくさん人の出来事がつまっています。先生やみんなの先祖が必ずいて、生きてきました。どんな生活をして暮らしていたのかを想像しながら歴史を学習してほしいです。



△授業の感想からV 5/18・19

・思っていたよりも生命を昔からいたことを知ってびっくりした。生命から三葉虫になるまでにそんなに時間がかつたんだなとおどろいた。(久保)

・この授業して、地球ははじめどんな姿をしていたのかとても気になり、もっと学習したいと思いました。(菅野)

・私は歴史が好きです。だから、縄文・令和までの名前を知っています。この授業で、いつ何か誕生したのかを知れました。また、いろいろな勉強したいです。(岩本)

・人が誕生したのは、一億年くらい前だと思っていたけど、全然数がちがってびっくりした。

(安川)

・予想したのと全然ちがっていて、生命の誕生から三葉虫がさかえるまでの間がすごくあいていてびっくりしました。

(堀川)

・日本の歴史でも長いと思っていたのに、地球の歴史で見たら、めっちゃ短いと思った。①〜⑥までの間に何があったのか気になった。

(戸川)

・地球が誕生してから今に至るまでに、いろいろなことがあったことが分かった。江戸時代が四百年前にあったこともわかった。次は江戸時代から現在までを調べてみたい。

(岡田)

生命の誕生から三葉虫が栄えるまで、どうして三億年も間があるのかが気になった。(西野)

・生命の誕生したのが、すごく古かったのでびっくりした。三葉虫は意外と最近だった。ヒトの誕生は見えないくらい近くておもしろかった。(磯田)

・地球が誕生してから生命が誕生して、三葉虫がさかえるまで、とても長くてびっくりした。(大武)

みんなの日記から



「みんなでは、できるかぎりみんなの日記や作文をのせたいです。休校のこの間、みんなはどのように毎日過ごしていたのか、六年生になったのに、学校が始まらなくて、どんな気持ちだったのかを知りたいです。このような状況でも、新しい六年生に希望を持つ日記が目立ちました。「みんなでは」をみんなの声でうめたいです。

□「新型コロナウイルス」 喜沢優衣

今、世界は新型コロナウイルスで大変なことになっていきます。東京では一日に約百四十人ぐらい感染しているのでもこわいです。奈良は約三十人感染だとニュースで知りました。

三月から学校が休みになっていて、習い事のダンスと書き方もお休みになりました。お出かけに行くのにもちよつとこわいのであまり行かないようにしています。

いようにしています。

マスクもどこに行ってもあまり売っていないので、お母さんに布マスクを作ってもらいました。とても気に入っています。

早く新型コロナウイルスが終息して、学校に行つてみんなと会いたいです。

□「休校中の生活」 久保日香莉

私は休校になってから意外と楽しい生活を送っています。

毎日勉強もして、お父さんにゲオでマンガを借りてきてもらつて、外でもいっぱい遊んで楽しんでいます。

最近によく弟とお料理をします。時間があるからしているのですが、お母さんは料理を作るのがあまり好きでないのので、他のお手伝いよりも喜んでくれます。

他にも、いつもはしないお風呂あらいなどもするようになりました。ピアノの練習もいつもはあまりしてないけれど、休校になってからは毎日たくさん練習できています。しかも、今は私の好きな曲をしているので、とくに練習たくさんしています。

今はコロナで外出ができなくなって大へんだけれど、家の中でできる事はしていきたいです。



日本にもゾウがいたり、とても大きいシカがいたりしたようです。野尻湖人はどんな暮らしをしていたのでしょうか？

香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集 「みんなで」 第6号 2020.5.25(月)

野尻湖人の暮らし

歴史の学習が始まりました。先生は歴史の教科書には不満を持っています。なぜなら、縄文時代からの学習になっているからです。縄文時代の前には旧石器時代があります。かつての教科書にはのつてあったのに、どうしてなくなったのか不思議です。

それで、縄文時代(一万六〇〇〇年前)の前の旧石器時代のことを学習しました。約二〇〇万年前から始まった旧石器時代という、とても野蛮で未開で、その日暮らしのような生活をしていたようなイメージがあるのですが、本当はそうじゃないということが発見された化石からわかります。

一九四八年、長野県野尻湖の近くに住む旅館の人が、水が少なくなってきた湖の底から化石を発見しました。それがきっかけで、大がかりな湖底の調査が始まりました。湖から発見されたのが、ナウマンゾウのキバと、オオツノシカのツノでした。化石が発見されたことから、日本にもゾウが生きていたことになります。

このナウマンゾウの大きさは、約二・七mとアフリカゾウ(約三・四m)よりも小さいのですが、

体のわりにキバが大きいのが特徴です。また、ひたいに出っぱりがあつて、ぼうしをかぶっているように見えます。

オオツノシカは、今のシカよりも大きくて、地面から肩までが、一・七mもあり、左右に広がった大きな角が特徴です。奈良公園のシカみたいなかわいいものではなく、おそろしく大きいシカだったようです。

このゾウの化石が、不自然な形でちらばつて発見されたことや、他にも石器や骨器が見つかったことから、今から四万年ぐらい前に野尻湖辺りに人が住んでいたことが分かったのです。

ゾウをとるために、湖においこんで、ぬかるみに足をとられて動けなくなった所を、やりでついでとらえました。たいまつを持ってゾウを沼に追いやる人、やりを持つ人など役割分担をして、集団でゾウをしとめたのでした。また、オオツノシカは、深さが1.5mもある落とし穴をほつてつかまえていたこともわかりました。このようなかしい方法でかりをしていたのでした。野尻湖人の知恵だと言えるでしょう。

※くわしいことは、『野尻湖ナウマンゾウ博物館』のウェブサイトにのっています。

△授業の感想から▽

昔の人は、石や骨だけでかりをしているのはすごいと思った。オオツノシカをつかまえるための、1.5 mのあなを、どうやってほって、どうやってのぼってくるのが気になった。

(井上)

沼にさそうとゾウは動かないことを知った。昔の人はすごい頭がいい。

(木村)

昔の人は、自分よりも大きな動物を相手にしていたので、勇気があるなと思ったし、昔の人は頭が良くて力も強かったと思います。

(土家)

昔は、シカなどもとても大きかったのに、それをつかまえようとするのには、すごく勇気がいることだと思った。今は、食べ物はいっぱいに入るとけど、昔の人は必死にがんばっていたと分かり、すごいと思った。

(八田)

昔の人は、みんなで協力して狩りをしていて、道具も自分たちで工夫して作り、生活していることがわかった。また、今とは違う動物の姿も見られて面白かった。

(澤田)

最初に日本にゾウがいたと聞いて、びっくりしました。それに、何の化石か、初めはゾウかと思っただけど、まさか、シカもいたとは思いませんでした。

(佐藤心)

・大昔の人は、弓矢がなくても頭を使い、落とし穴や沼を使って、うまく戦っていた。すごく命がけて戦っていたことが分かった。

(高山)

・集団でかりをするときに、役わり分たんして、かりをしていたのがすごいと思った。

(西野)

・野尻湖人が、こんなに頭を働かせて生きていることがすごいと思いました。

(谷口)

・湖深くにナウマンゾウのキバやオオツノシカの角があるなんてびっくりです。もうちょっとほったら、また出てくるかもしれないです。

(中岡)

【考古学のお話①】トイレの話ー

みなさんは考古学って聞いたことがありますか？道路や大きな建物を建てる時、土をほると、そこから昔の人の住んでいたあとが発見されることがあります。それを遺跡というのですが、考古学というのは、その遺跡に住んでいた人は、いつの時代の人で、どんな生活をしてたのかを、出てきた骨や土器などから調べる、まあ、なぞときのような学問なのです。

『食の考古学／佐原真(東京大学出版社)』と言う本があります。タイトルの通り、日本人が何を食べていたのか、お米のこと、はしのこと、ゴミ、トイレのことについてかかれてあります。今回紹介するお話は、みんなの好きそうなトイレやウンコの話をしようと思います。

みんなは奈良に昔、都があったというのは知っていると思いますが、昔の人もウンコをしていました(当たり前です)。遺跡からは、その便所と思われる建物のもとが発見されています。今のうちに水洗トイレはないから、川やみぞにまたがった長い建物を建てて、そこがトイレとなっていたのです。つまり、ウンコを川にながしていたのですね。だからトイレのことを「かわや(川屋・厠)」と言うのです。このほか、都でも、川のないところでは、一メートルぐらいの穴をほって、そこにウンコをしていたそうです。しかし、よく考えてください。川にウンコをすればそのまま流れてくれるけど、穴にウンコをすれば、いつかは、あふれてしまします。それでは、どうしていたと思いますか？その答えを言いたいところですが、このお話の続きは、次回にします。予想しておいてください。

・いろんな化石を見て、オオツノシカが1.7 mあることが一番びっくりしました。また、昔の人は、すごく賢いことが分かりました。

(堀川)

・奈良公園にいるシカは、自分より低いけれど、オオツノシカは自分よりはるかに大きい。

(渋谷)

・今みたいに便利な道具がないので、命がけて狩りをしていたんだなと思いました。

(井阪)

・ナウマンゾウを沼地に追いこむことはいい考えだなあと思いました。また、野尻湖人のくらしについて、勉強したいです。

(喜沢)



クレーンもショベルもない時代にどうやってこんなに大きな建物を造ったのでしょうか。

香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」 第7号 2020.5.28(木)

縄文人のくらし



今から一万二千年前から一万年も続いた時代が縄文時代とされています。縄文とは、細い縄を転がしてつけた土器の模様から縄文土器と名前がつき、その土器が使われていた時代ということして縄文時代とよばれています。

先生が小さいことには、縄文時代というのは、住みかもある程度ではなく、あちこちに移り住んで、貧しく野蛮な暮らしをしていたと教えられてきました。しかし、最近になって新たな遺跡の発見から、そうではないことがわかってきたのでした。その発見の一つが三内丸山遺跡でした。

三内丸山遺跡は約五五〇〇年～四〇〇〇年前まで続いた集落の跡です。東京ドーム七個分の広い遺跡には、大型掘立柱建物跡、大型竪穴住居跡など大きな建物の柱の跡、大人の墓、子どもの墓などが見つかっています。縄文土器はもちろん、クリを栽培してことや、舟で北海道や新潟との交流があったこともわかっています。その日暮らしなんかでなく、豊かな縄文人の生活の様子がうかがえます。

☆授業の感想から

・昔は今より道具が少なく、自分たちでがんばらないといけないけど、工夫して生活していた。私は今はこうして便利なくらしができるのはいいことなんだなと思いました。

(下田)

・大型掘立柱建物を、縄文人たちは、クレーンがないのに造ったことにびっくりしました。縄文人はたくさん工夫して過こしていたと思いました。

(三瀬)

・このような歴史の学習は楽しい。そのころの人のくらしはどのようにしていたのかとか、昔の家のことが知れた。

(磯田)

・縄文時代の食料は魚だったんだなあと思いました。また、子どもを大切にしたらんだなと思いました。

(倉谷)

・縄文時代には、今のようないくつかの技術がないのに、どうして大きな柱などを立てられたのかが不思議だ。

(塚本)

・冬には食べ物が少なくなって、亡くなる人がたくさんいたと思います。また、寒さでかぜや病気を引き起こして亡くなってしまった人も多かったと思います。

(土家)

・今から五五〇〇年前から舟で貿易をしていることがすごいと思った。さらに、そんな昔に舟をつくる技術があったなんておどろいた。

(西野)

・縄文時代の人は、みんなで家を作っていることや、クリをさいばいしていたことがわかった。

(岩本ひ)

・私は竪穴住居について、もっとくわしく調べたいと思いました。どのようにしてつくられたのか、中はどんな様子なのかを調べて知ってみたいです。

(澤田)

みんなの日記から



□「六年生になって」

谷口剛琉

ぼくは、六年生になってがんばりたい事が三つあります。

一つ目は、部団の班のみんなを引っばって学校まで連れて行くことです。間をとって、しっかり「ならばよ。」って、言ってあげたいです。

二つ目は、だれにでも優しくすることです。たとえ、相手が優しくなくても、優しくすることです。

三つ目は、学校生活最高の一年間にしたいです。なぜかと言うと、小学校が六年生で最後なので、一年から五年まで以上にがんばりたいです。最高の一年間にしたいです。

□「五月十八日」

岡田紗侑

今日、久しぶりの学校がありました。久しぶりの学校は楽しくて、友達にも会えてうれしかったです。

宿題をすることや、家にずっといることは、ちよつとつかれたけど、学校に行つて、友達に会えたのはうれしかったです。

また次に学校に行つて、友達に会えるのが楽しみです。

□「六年生になって」

大武優介

六年生になって、楽しい事が二つあります。

一つ目はマラソン大会です。今までは全部一位を取っているから、六年生になっても一位を取りたいです。

二つ目は、修学旅行です。どのようなことをするのかはあまりわからないけど、戦争のことを知ることができるとも勉強になります。他にもいろいろなことができると思うから、とても楽しみです。

六年生ではいろいろな行事があると思うと、とても楽しみです。今はこのような状態なので、修学旅行はあるのかどうかかわからないけど、あるといいです。

□「六年生になって」

下田瑠菜

私は算数をがんばりたいと思います。学年が上がっていくと、いろいろな教科が難しくなっていくけど、私は算数が苦手で、たまについていけないなったりするかもしれない不安です。けど、がんばってみんなについていけるようにちゃんと勉強したいと思います。

小学校最後の一年で、楽しみにしていたのに、クラスみんなで集まることができないのが残念です。だけど、また普通の学校にもどるのが楽しみです。

【考古学のお話②】 トイレの話

奈良時代にも法律があつて、ウンコのしまつについても書かれてあるのです。あなにたまつたウンコのしまつをするのは、実は、ろうやに入れられた人なのです。「労働の刑」というばつがあつて、「道路の工事や橋をたてたりしなさい。六日ごとに宮のまわりをそうじしなさい。雨がふつて、やんだ朝には、トイレのきたないものやトイレのみぞをそうじしなさい。」というきまりでした。

ウンコはそのままほつていたら、やがて固まつて石のような固い土になります。これを糞石(くそいし：ふんせき)といいます。この中には、人間のウンコとともに出てくる回虫も化石になつていて、当時の人がどんなものを食べていたのかもわかるそうです。また、糞石の中の成分を調べると、今の科学では、なんとウンコをした人が、男か女かまでわかるそうです。ほんと、驚きですね。それにしても、大昔の人のウンコを一つ一つ研究する学者の先生たちには頭が下がる思いです。

穴のトイレは、東北地方でも見つかつています。大小の穴が三〇ほど見つかつていて、大きい穴は、直径が一・六メートル、深さが二メートルで、ここからは、糞石のほかに、二〇センチほどのヘラがたくさん見つかるのです。工作のねんどの時に使う長細いヘラのようなものです。さて、ここで問題です。一体このヘラは何に使つたと思いますか？